

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-89		
自己評価作成日	平成24年12月26日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170500389-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性や能力に合わせて、作業療法として「ガーデニング」に力を入れたり、体力作りとして、職員とホームの犬と「散歩」をし、下肢筋力の増強や近隣のふれあいを楽しんでいます。職員は常に利用者が寄り添い意志を尊重し安心して生活が送れるよう明るく・楽しい雰囲気作りをする様努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の能力を活かし、できることややりたいことは何でも叶えさせてあげたい支援を日々の生活で実践している。隣接する医療機関が協力医であり、日々の様子を申し送り毎日伝達し、いつでも指示や連携ができています。代表者の「地域の人が助けがしたい」という強い思いから開設されており、全職員が思いを一つに、管理者も通常業務の現場に入り、利用者と職員とが常に良好な関係を築いている。日に2回のミーティングや申し送り職員間で情報を共有し、利用者の状態に合わせたケアを提供している。外部評価は全職員で取り組み、結果は家族にも送付し、運営推進会議で課題への取り組みを話し合っている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の密着し、近隣との交流を深めることを理念とし、それに基づき挨拶や会話などを通じて親近感を持って頂けるよう実践しています。	毎日2回のミーティングで管理者が「介護の心構え」と共に理念を伝達し、職員が確認して日々実践している。住み慣れた地域で「利用者ができる事・やりたい事を支援する」を全職員が認識し、生活場面で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、祭りなどの行動に参加し、地域の一員として溝掃除活動の参加も積極的に行っている。	野菜や花苗の提供を受け住民と一緒に畑作業をしている。ボランティアが訪問し中学生の職場体験を受け入れている。散歩や外出時は職員が率先して声かけや挨拶し、祭りや行事は利用者も一緒に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活かし、自治会や民生委員さんを通じ、近隣ケアの集いがあつた時は、認知症への理解を求め支援をされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催行事や問題点について話し合いがされている。この会議をいかし、避難訓練等での参加をしてもらい、意見やサービスの向上に活かしている	事業所の行事報告や事故報告を行い、参加者から助言を得ている。外部評価実施の報告を行い、課題について実践状況を話し合っている。季節ごとに事業所の重点取り組みを説明し、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの入居依頼の問い合わせや社会福祉協議会の方たちとの連絡を密にし、色々相談や要望をしたり、指導を受けたりして、課題・解決を図っている	各種の手続きの機会に担当者に指導や助言を得たり、情報の交換ができる関係がある。身元引き受け人の協力が得られない利用者や面会が少ない家族について、対策や関わり方を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が周知徹底を図り、取り組んでいる。利用者に危険を伴う場合のみ、家族に了承していただき短時間のみ行う場合もある、玄関の施錠は利用者の安全を守る為やむを得ず施錠することもある。	拘束はしないことを全職員が理解し、毎日のミーティングで確認している。ベッド柵は使用せず、夜間は頻回に巡回し、ベッド下に布団を敷いている。落ち着かない利用者には、一緒に話を聞いて側で寄り添う支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業内容で虐待がなされていないか職員間で報告を密にし、見過ごされることがない様全職員で防止徹底を図っていく		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この必要性に応じて分らない事は市関係者に問い合わせたり、していますが、今のところ該当者はいません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に説明した上で入居を決めています、又、改定など生じたばあいは、郵送にて文書等をお送りして署名・捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ふれあい箱」を設置し気軽に意見や要望を伝えるような関係作りに努めています。又、行政機関等を利用して苦情を表せるようにしてある。	玄関にノートを吊り下げ、どんな些細な事でも書いてもらうように働きかけている。面会時は職員から積極的に声かけし、意見や要望を聞いている。隔月に家族に手紙を出す時に、運営に活かす意見や要望を尋ねている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日1回ミーティングを開き、意見を反映させている、事業所全体では年2回の会議を開催し他の部署での意交換している、	管理者と職員間は信頼関係ができており、いつでも気軽に意見を言ったり助言が得られる関係を築いている。申し送り・ミーティング等で出た意見は、全職員と相談し、できるだけ早急に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回親睦会を開き、情報交換やコミュニケーションを図り、職員お思いや考えを把握するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、定期的に研修が行われている。外部講習の案内もあり、勤務内で受講の機会があり、研修費用の補助で資格取得に向けた支援がある毎日のミーティングで学ぶことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他のグループホームを訪問するなどの交流はある。一部の職員に限らずサービスの質の向上の為に同業者との交流は努めていきたい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学機会を設け情報収集をし生活の変化によるダメージの軽減を図っている安心して良い関係が作れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様、見学機会を設け、家族の意向や要望を聞き安心して頂けるような信頼関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から情報収集し今何が必要かを見極めて他のサービスが必要な場合は、協力支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気を作りを大切に、駄目な事は注意するようにしてそれぞれの得意分野で力を発揮してもらい声を掛け合い、助け合いで日常生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や家族の要望に耳を傾け、相談内容にも取り組んで、家族、本人が安心してまた絆を深めていけるよう努めていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問した際には、一緒にお茶を飲み、面会・訪問しやすい雰囲気作りや近くの喫茶店やお買いものなど、安心して行けるような心配りをしています。	知人や親族に電話を掛けたり手紙を出し、関係が途切れない支援をしている。入居前の通所施設・ふれあいサロン・喫茶店に出かけ、話をしたりお茶を飲んだりしている。馴染みの美容院に行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との人間関係が上手く築けず孤立してしまう方もいますが、行事やレクリエーション、作業療法などを通じて利用者同士が関わり、孤立しない雰囲気作りに努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が切れても、新たな入所相談にのったり双方の近況を話しをしています。又退所された家族から、野菜等を頂いたりして交流を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを多くとり日常生活の暮らしの希望に添えるよう努めています。出来ることは実践して頂き、生活に不安がある為、話を聞いたり、声掛けをしている。	利用者の仕草や行動を見逃さず側に座り、時間をかけて思いを聞いている。気持ちを把握する為に、居室で職員が一对一で聞く時もある。先立った子へのお供えや一番茶を供える希望を聞き、職員も一緒にお参りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、面接、見学の時などにお話を聞き、その人の生活環境や困っている事をきき、サービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の特徴を全職員が把握し利用者の動きや体調の変化を早急に気付く、現状の把握に努め記録に残している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直しの時に本人・家族の意見を聞きいれたり問題点などを話し合い、現状に即した介護計画作りを作成している。	ADLチェック表・介護記録等を参照し、職員全員で月1日回モニタリングし、利用者や家族の意見を取り入れ、計画を見直している。3ヶ月に1回はサービス担当者会議にて家族や医師も含めて検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々について日々個別に介護記録に記入し、気づいた時は、すぐに職員間で話しあい、工夫・介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況により、本人・家族の要望に応じ理美容院の利用や、近隣ケアの参加や地域のボランティア等の協力を得て支援している。		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源・エネルギーの節約、花・野菜を植え収穫を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療施設が隣接しているので、家族の方もドクターを信頼されている為、何か異変があった場合早急に対応しています。	協力医をかかりつけ医とする利用者は多いが、入居前からのかかりつけ医とする利用者もいる。かかりつけ医には事業所の様子を伝え、協力医と連携し情報を共有している。協力医とは毎日情報を伝達し連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携を密にし、体調の変化に早急に気づき、看護師を通じて相談し、適切な看護受診が出来るよう心掛ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に経過をよく説明し相談を行い早期退院について家族と医療機関との連携がスムーズに行えるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、本人、家族関係者が話し合いをし、方針を確認している。本人とは心穏やかに日々を過ごせるよう努めています。	入居時に事業所の方針を説明し、重度化により入院する時もあるが、利用者や家族の希望で看取りも行っている。身体状態に合わせて医師とも相談し、その都度全職員がミーティングで話し合いを行い、できるだけの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師と初期急変等について、情報を交換しそれを全職員で話し合い緊急に応急手当が出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会の元消火器の使い方、避難経路の確保をし災害時の体制を職員全員が把握している運営会議で議題にして話し合っている。	夜間想定避難訓練を実施している。食料等の備蓄はしていないが、寒さ対策や頭部や体を保護する為の毛布・バスタオル・タオル等を常備している。民生委員の協力はあがあるが、地域住民の協力が得られていない。	地元の総合防災訓練に利用者と一緒に参加もしているが、緊急時の職員体制は限定されている為、地域住民の協力への働きかけを積極的に行われない。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室になっており、プライバシーを配慮し入室時は必ずノックし声掛けする。人格を尊重し気分を損ねないように対応する。	居室に入室時はドアをノックし了解を得ている。排泄時は他の利用者に聞こえないように耳元でそっと声かけしたり、さりげなく誘導している。居室で保管する排泄用品やポータブルトイレは人目に触れない配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをたくさんとり、その中から本人の希望を聞き取り本人の意思に従って、日常の中で本人が自己決定できるようにしている。又何でも話せる関係を保てるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し、見守りながら支援している。食事等で時間がかかる方は焦らず少し早目に食べて頂き、入浴は入る順番を教えゆっくりと入って頂く。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1回位のペースで美容院へ、歩ける方は出向いたり、施設に出張してもらい、外出する時衣装のチェック、一緒に服を選んだり女性は化粧を楽しんでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物や食べたい物をたずね、出来る限りそれに応えられる様努力している。季節の野菜を取り入れ、目で楽しんで頂き食器の後片付けは当番制にしている。	旬の食材を中心に見た目の彩りも配慮し、食欲をそそる盛り付けをしている。栄養士の助言を得て利用者の希望を聞き献立に取り入れている。職員は誤嚥への見守りを重視する為に、一緒に楽しむ支援ができていない。	職員と一緒に準備や後片付けは行っており、安全な摂取も大切であるが、食事が楽しめる雰囲気づくりの取り組みが望まれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、食事量を守り、10時と3時には水分補給の為、ティータイムとしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けして、出来る方はご自分で歯磨きをされ、出来ない方は介助しながら、又入れ歯の方はポリデントを週1回使用して消毒しています。			

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿のパターンを把握して、声掛けし誘導したり訴えがあれば何時でも指導介助している。日中はオムツを外しに取り組んでいる	介護記録で排泄パターンを把握し、夜間のみオムツ使用する人もいるが、利用者の表情や動作を見逃がさずトイレ誘導している。入居後、自立に向けた排泄プランで、定時のトイレ誘導にて排泄が自立した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を考えて食物繊維を多く摂取し、乳製品のヨーグルトを入れたり、水分補給をこまめに、運動不足にならない様日課に体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、入浴する順番を決めている体調や気分のすぐれない方は後日体調の良い日に入ってもらい、介助が必要な方は、プライバシーに配慮しながら安心して入浴をして頂いていきます。	利用者に湯温や順番の希望を聞き、入浴時間は制限せず、毎日の入浴や足浴にも対処している。希望等により一人入浴や同性介助入浴等職員が一对一で対応している。季節で菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房が各部屋に設置してある為、室内の温度調整をし、天気の良い日は、布団を干して、気持ち良い、安眠や休息の環境づくりをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターの指示に従って、用法・用量を守って、服用している。又体調の変化に早急に気付きドクターに報告し薬の変更があればその都度薬の用量を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節にあった行事・花見・クリスマス会・お誕生会等を行い、個人の趣味(塗り絵・カレンダー作り・貼り絵)等をやって頂き、洗濯物を干したり、たたんだりして楽しんでいます。時々喫茶店などにも外出して、気分転換しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	犬の散歩に出掛けたり地域のお祭りや、お花見に近くの公園まで外出している	利用者の希望で車イスの人も犬と一緒に散歩に出かけている。日常の買い物に職員と一緒に出かけている。近くの公園でお菓子やお茶を持参し一時を過ごしたり、外出計画で行事の遠出は弁当持参し、花見や初詣等に出かけている。	

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の力量に応じて支援している。自己管理出来る方は自分で財布を持ち、出来ない方は事務所の方で預かり、本人の希望を聞き買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話にて、何時でも自由に使用できる。自分で家族に手紙を書かれたり電話で連絡を取り合っている方もみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には四季折々の生け花を生けホームには共同制作の作品を飾り季節感が感じられる。台所がが身近にあり、料理の香りや音も楽しみである室内犬とのふれあいも癒しになっている。	様々なイスやテーブルを置き、利用者が思い思いの場所で過ごしている。濡れたタオルを干して加湿し、窓を開放し空気を入れ替え室温や換気に注意している。オープンキッチンの為、調理風景が見られ、いつでも湯茶が飲める生活感があふれる空間としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで他者との会話を楽しんだり、天気の良い日に庭に椅子を並べて日向ぼっこをしながら気の合った人同士で会話をしながら楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具を持って来て頂き好きな絵や写真を飾ったり少しでも自宅での生活と距離感がないよう工夫している。	自宅で使い慣れた時計・冷蔵庫・TV等を持ち込み、利用者の作品や花を生けて飾っている。位牌や故人の写真をまつる利用者もあり、手洗いの洗濯物を干したり、貼り絵や折り紙作業をしたり、自分らしい居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りの中、自分の居室の掃除・洗濯・花壇の手入れや趣味等自分で出来ることはやって頂いてる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-89		
自己評価作成日	平成24年12月26日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170500389-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の密着し、近隣との交流を深めることを理念とし、それに基づき挨拶や会話などを通じて親近感を持って頂けるよう実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、祭りなどの行動に参加し、地域の一員として溝掃除活動の参加も積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活かし、自治会や民生委員さんを通じ、近隣ケアの集いがあつた時は、認知症への理解を求め支援をされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催行事や問題点について話し合いがされている。この会議をいかし、避難訓練等での参加をしてもらい、意見やサービスの向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの入居依頼の問い合わせや社会福祉協議会の方たちとの連絡を密にし、色々相談や要望をしたり、指導を受けたりして、課題・解決を図っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が周知徹底を図り、取り組んでいる。利用者に危険を伴う場合のみ、家族に了承していただき短時間のみ行う場合もある、玄関の施錠は利用者の安全を守る為やむを得ず施錠することもある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業内容で虐待がなされていないか職員間で報告を密にし、見過ごされることがない様全職員で防止徹底を図っていく		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この必要性に応じて分らない事は市関係者に問い合わせたり、していますが、今のところ該当者はいません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に説明した上で入居を決めています、又、改定など生じたばあいは、郵送にて文書等をお送りして署名・捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ふれあい箱」を設置し気軽に意見や要望を伝えるような関係作りに努めています。又、行政機関等を利用して苦情を表せるようにしてある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日1回ミーティングを開き、意見を反映させている、事業所全体では年2回の会議を開催し他の部署での意交換している、		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回親睦会を開き、情報交換やコミュニケーションを図り、職員お思いや考えを把握するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、定期的に研修が行われている。外部講習の案内もあり、勤務内で受講の機会があり、研修費用の補助で資格取得に向けた支援がある毎日のミーティングで学ぶことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他のグループホームを訪問するなどの交流はある。一部の職員に限らずサービスの質の向上の為に同業者との交流は努めていきたい		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学機会を設け情報収集をし生活の変化によるダメージの軽減を図っている安心して良い関係が作れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様、見学機会を設け、家族の意向や要望を聞き安心して頂けるような信頼関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から情報収集し今何が必要かを見極めて他のサービスが必要な場合は、協力支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気を作りを大切に、駄目な事は注意するようにしてそれぞれの得意分野で力を発揮してもらい声を掛け合い、助け合いで日常生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や家族の要望に耳を傾け、相談内容にも取り組んで、家族、本人が安心してまた絆を深めていけるよう努めていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問した際には、一緒にお茶を飲み、面会・訪問しやすい雰囲気作りや近くの喫茶店やお買いものなど、安心して行けるような心配りをしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との人間関係が上手く築けず孤立してしまう方もいますが、行事やレクリエーション、作業療法などを通じて利用者同士が関わり、孤立しない雰囲気作りに努めています		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が切れても、新たな入所相談にのったり双方の近況を話しをしています。又退所された家族から、野菜等を頂いたりして交流を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを多くとり日常生活の暮らしの希望に添えるよう努めています。出来ることは実践して頂き、生活に不安がある為、話を聞いたり、声掛けをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、面接、見学の時などにお話を聞き、その人の生活環境や困っている事をきき、サービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の特徴を全職員が把握し利用者の動きや体調の変化を早急に気付き、現状の把握に努め記録に残している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直しの時に本人・家族の意見を聞きいれたり問題点などを話し合い、現状に即した介護計画作りを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々について日々個別に介護記録に記入し、気づいた時は、すぐに職員間で話しあい、工夫・介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況により、本人・家族の要望に応じ理美容院の利用や、近隣ケアの参加や地域のボランティア等の協力を得て支援している。		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源・エネルギーの節約、花・野菜を植え収穫を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療施設が隣接しているので、家族の方もドクターを信頼されている為、何か異変があった場合早急に対応しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携を密にし、体調の変化に早急に気づき、看護師を通じて相談し、適切な看護受診が出来るよう心掛ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に経過をよく説明し相談を行い早期退院について家族と医療機関との連携がスムーズに行えるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、本人、家族関係者が話し合いをし、方針を確認している。本人とは心穏やかに日々を過ごせるよう努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師と初期急変等について、情報を交換しそれを全職員で話し合い緊急に応急手当が出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会の元消火器の使い方、避難経路の確保をし災害時の体制を職員全員が把握している運営会議で議題にして話し合っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室になっており、プライバシーを配慮し入室時は必ずノックし声掛けする。人格を尊重し気分を損ねないように対応する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをたくさんとり、その中から本人の希望を聞き取り本人の意思に従って、日常の中で本人が自己決定できるようにしている。又何でも話せる関係を保てるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し、見守りながら支援している。食事等で時間がかかる方は焦らず少し早目に食べて頂き、入浴は入る順番を教えゆっくりと入って頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1回位のペースで美容院へ、歩ける方は出向いたり、施設に出張してもらい、外出する時衣装のチェック、一緒に服を選んだり女性は化粧を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物や食べたい物をたずね、出来る限りそれに応えられる様努力している。季節の野菜を取り入れ、目で楽しんで頂き食器の後片付けは当番制にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、食事量を守り、10時と3時には水分補給の為、ティータイムとしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けして、出来る方はご自分で歯磨きをされ、出来ない方は介助しながら、又入れ歯の方はボリデントを週1回使用して消毒しています。		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿のパターンを把握して、声掛けし誘導したり訴えがあれば何時でも指導介助している。日中はオムツを外しに取り組んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を考えて食物繊維を多く摂取し、乳製品のヨーグルトを入れたり、水分補給をこまめに、運動不足にならない様日課に体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、入浴する順番を決めている体調や気分のすぐれない方は後日体調の良い日に入ってもらい、介助が必要な方は、プライバシーに配慮しながら安心して入浴をして頂いていきます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房が各部屋に設置してある為、室内の温度調整をし、天気の良い日は、布団を干して、気持ち良い、安眠や休息の環境づくりをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターの指示に従って、用法・用量を守って、服用している。又体調の変化に早急に気付きドクターに報告し薬の変更があればその都度薬の用量を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節にあった行事・花見・クリスマス会・お誕生会等を行い、個人の趣味(塗り絵・カレンダー作り・貼り絵)等をやって頂き、洗濯物を干したり、たたんだりして楽しんでいます。時々喫茶店などにも外出して、気分転換しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	犬の散歩に出掛けたり地域のお祭りや、お花見に近くの公園まで外出している		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の力量に応じて支援している。自己管理出来る方は自分で財布を持ち、出来ない方は事務所の方で預かり、本人の希望を聞き買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話にて、何時でも自由に使用できる。自分で家族に手紙を書かれたり電話で連絡を取り合っている方もみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には四季折々の生け花を生けホームには共同制作の作品を飾り季節感が感じられる。台所がが身近にあり、料理の香りや音も楽しみである室内犬とのふれあいも癒しになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで他者との会話を楽しんだり、天気の良い日に庭に椅子を並べて日向ぼっこをしながら気の合った人同士で会話をしながら楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いなれた家具を持って来て頂き好きな絵や写真を飾ったり少しでも自宅での生活と距離感がないよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りの中、自分の居室の掃除・洗濯・花壇の手入れや趣味等自分で出来ることはやって頂いてる。		